

教材活用シリーズ 第108回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などを紹介します。

作業を通して記憶・記録に残る『家庭科楽習ノート』

—シール・しおりなど楽しく学習できる工夫がいっぱい—

(株)正進社
『家庭科楽習ノート』



かわづ ちかこ
川津 知佳子
(千葉県佐倉市立井野小学校 教諭)

小学校教員として現在まで勤務。共著『音楽』授業の新法則』『新・授業づくり&学級経営：365日サポートBOOK』3・5・6年（いずれも学芸みらい社）

家庭科は、一週間あたり二時間弱の教科である。授業はミシンや調理の実習を想定して、時間割上、二時間続きになっている。専科である私は、一クラスにつき一週間に一度しか授業をしない。時数が少なく、授業間隔が空く。学習の記憶・記録を助けてくれる強い味方が『家庭科楽習ノート』だ。以下、実際に使ってみたよ

い点を挙げる。
第一に、知識をしっかりと定着させられる。5年生では、ガスコンロの使い方や裁縫用具の名前を括弧の中に書き入れていく。教科書を読んで、キーワードを抜き出す。クラス全体で答え合わせをして、できていれば赤丸、間違えていれば正しい答えを書き直す。「ガスせん」「裁ちばさみ」などの新しい言葉も書き込むことで



▲家庭科楽習ノート5・6年

覚えられる。忘れても、楽習ノートを見返せば、簡単に思い出せる。

第二に、調理実習の計画を立てることが容易であり、実習時に役立つ。調理実習は、数名のグループに分かれ、同じグループのメンバーと協力して行う。計画を立てる時には、グルー

プで、どんな材料が必要なのか、一人分ではどれくらいの量があるのか、グループではどれくらいの量があるのか、相談したり、計算したりして、該当のページに記入する。誰がどの仕事を行うのかも、グループで相談する。教師は、同じグループ



▲調理実習の計画を立てる

のどの子の楽習ノートを見ても、同じように書いていくかをチェックしておく。実習時は、ひとつの作業台に一冊の楽習ノートだけが出ている状態にする。その楽習ノートを見て、分量や仕事の分担を確認しながら実習を進めればよい。作業時間や調理のポイントを括弧に書き込んでおくことで、実習時に記憶が曖昧になっても、すぐに探せる。

第三に、調理の完成図や自分の考えた献立を絵にかくことができる。6年生では、「ご飯が主食」のときの朝食の献立を考えるページがある。子どもたちは、家で自分が食べているおかずや、自分が食べたいおかずを、楽しそうに絵で表現していた。色鉛筆で着色すると、「茶色が多いな」「赤が少ないので、ミニトマトを加えて、彩りをよくしよう。」などのつぶやきも聞こえた。



▲付録の『楽習シール』

色塗りの作業を通して、見た目や栄養のバランスにも、気を配ることができる。
 第四に、シール貼りが楽しい。5年生では、五大栄養素の働きを知り、その栄養素を含む食

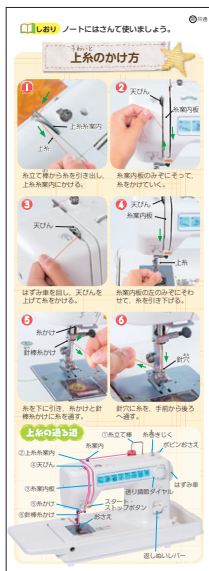
▼朝食の献立を考える



品を表にまとめるページがある。食品はシールになっており、子どもたちは表の該当箇所にそれを貼っていく。「シール貼り、楽しい！」と言いつつ、どの子どもも丁寧にシールを貼っていく。作業を通して記憶が定着する。
 第五に、「自由ノート」欄を使って、話し合いが可能である。楽習ノートの奇数ページに、「自由ノート」という書き込み欄がある。「調理実習をした感想を書きましよう。」と指示し、自分の言葉で書かせてから、発表させる。「グループの友達と協力しておいしくできました。」「ジャガイモがちよっと固かったです。」「作り方がわかったので、家でも作って家族に食べさせたいです。」などと感想が出る。「友達の感想を聞いて、自分も同じように思ったら、書き加えなさい。」と指示することで、子どもたちの書く量が次第に増えていく。5年生「家族に協力して仕事をしよう」のページでは、「友達の発表を聞いて、感想を書きなさい。」と指示する。「僕の家もそうだったけど、家の仕事を分担すると、家族が喜んでくれることがわかりました。」「私も、布団干しに挑戦したいです。」「食事の支度を分担した人が多かったです。」などの感想が出る。友達同士の意見を認め合い、一人ひとりの意欲が高まる時間になる。5年生「買物物のしかたを考えよう」では、四種類のなかから、自分ならどのノートを買うか、意見を書き込むページがある。「環境に優しいので、㊸のノートにしました。」「まとめて買うと、一冊分が安くなるので、㊹のノートにしました。」など、自分の立場を決めて、意見の交換ができる。

第七に、テスト前の復習を短時間でできること
 第八に、自分の一年の成長を実感することができる。5・6年生とも表紙の裏に、「できるようになりたいこと」を書き込む欄がある。四月、学年の初めに自分が家庭科の学習を通して、「できるようになりたいこと」をひとつだけ書いておく。「針と糸で、上手に小物が作れるようになりたい。」「自分一人で作れる料理を五つにする。」などだ。学年の終わる二月に、このページに戻り自己評価をさせる。どの子ども、自分の頑張ったこと、できるようになったことを思い出し、笑顔になる。

▶裏表紙を折り返して使えるしおり



第六に、ミシンの上糸のかけ方、縫い始めのやり方を何度でも見直すことができる。楽習ノートの裏表紙がしおりになっており、ミシンの学習内容が写真で示されている。上糸のかけ方は、忘れやすい。教師や友達に聞かなくても、しおりを見て自分で確認することができる。そして、次第にミシンの手順を覚えていける。